

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書／事後評価書

団体名	公益財団法人文京アカデミー
施設名	響きの森文京公会堂(文京シビックホール)
内定額	3,439 (千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		357	356
年間事業本数（※1）	主催事業	50	44
	公演事業	27	20
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	人材養成事業	4	4
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	普及啓発事業	19	20
	（内、本助成対象事業本数）	11	11
	その他 内容： 記入してください	0	0
貸館日数	ホールごとの貸館日数	600	605
	ホール名： 大ホール 座席数： 1802	298	297
	ホール名： 小ホール 座席数： 341	302	308
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	31,707	24,698
	公演事業	27,351	18,644
	人材養成事業	2,004	2,215
	普及啓発事業	2,352	3,839
	その他 内容： 記入してください	0	0
	貸館事業入場者・参加者数	316,206	349,174
	その他 内容： 記入してください	0	
	計	347,913	373,872
施設の利用率(%)		98.9%	98.1%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	27	38	27,351	83.0%	2	20	0	1	4	0	0
	共催・提携公演（※2）	21	35	60,115	65.8%	0	12	6	3	0	0	0
	貸館公演（※3）	704	704	260,447	47.3%	19	268	32	26	0	0	359
	計	752	777	347,913								
令和6年度	主催公演（※1）	20	24	18,644	86.8%	1	13	1	1	4	0	0
	共催・提携公演（※2）	28	61	75,625	61.4%	0	18	8	2	0	0	0
	貸館公演（※3）	724	724	279,603	49.8%	27	267	42	49	0	0	339
	計	772	809	373,872								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

- 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

[illegible]

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業						
人材養成事業						
普及啓発事業	質の高い事業を行うことによって、満足度を向上させる。 ⇒参加者(入場者)、教員及び施設担当者に向けてアンケート調査を実施する(普-01、02、03)。	(1)参加者(入場者)対象:満足度平均3.7以上[4段階] (2)教員・施設担当者対象:満足度平均3.7以上[4段階]	(1)参加者(入場者)対象:満足度平均3.7以上[4段階] 普-01:満足度平均3.82(4段階中) 普-02:満足度平均3.84(4段階中) 普-03:満足度平均3.79(4段階中) 総合満足度平均:3.81(4段階中) (2)教員・施設担当者対象:満足度平均3.7以上[4段階] 普-01:満足度平均4(4段階中) 普-03:満足度平均3.85(4段階中) 総合満足度平均:3.9(4段階中)	・(1)参加者(入場者)及び(2)教員・施設担当者の双方において、令和6年度の目標に掲げた「満足度平均3.7以上(4段階中)」を達成することが出来た。(アンケート集計結果より) ・(1) 参加者(入場者)対象の満足度に関しては、普-01、普-02、普-03の平均がいずれも3.7を上回っており、総合満足度平均も3.81と、目標を安定して達成した。参加者のニーズを把握し、求められる事業を展開すること、また各事業において事業内容だけではなく、丁寧な運営対応による評価が得られたと考えられる。 ・(2) 教員・施設担当者対象の満足度についても、総合的に基準を安定して上回る総合平均3.9と高評価を得ることが出来た。特に、普-01においては満点の4を獲得しており、事業内容だけではなく、事前打ち合わせ等により「細かな点まで事前にわかってよかった、当日の運営もスムーズだった」と、運営の対応も高く評価された。 引き続き安定した事業の展開をするとともに、さらに評価を高められるよう、アンケートの分析を中心に参加者のニーズ研究に取り組み、また運営面においても品質を向上できるよう丁寧な対応を行いたい。	◇各事業において、参加者(入場者)および教員・施設担当者の満足度は高く、事前に設定された目標値を確実に上回る成果が確認され、地域に寄り添った事業を実施したと認められた。 ◇普-1「アウトリーチプログラム」、普-3「吹奏楽普及プログラム(①中学生のための吹奏楽クリニック)」では、事前に施設側と運営やプログラム等についての打合せを行い、それぞれのニーズに即した内容で実施された。その結果として、アンケートでは満足度の高い記述が多くみられた。引き続き、地域の各施設・機関との連携を一層緊密に構築されることを期待する。 ◇普-2「音楽普及プログラム」は、0歳から入場可能とし、普段芸術に触れる機会の少ない子育て世代を対象としたコンサートであった。特に「東京フィル・親子で楽しむ“はじめてのオーケストラ”」では、指揮者体験や楽器紹介のコーナー、童話をもとにしたオリジナルの台本に合わせてクラシック音楽等を演奏する音楽劇が行われ、子どもたちに親しまれる内容だった。事業全体の入場者を対象としたアンケートにおいては高評価が多かったものの、演出等について一部意見が見られた。アンケートの結果を踏まえ、さらに多くの子どもたちが心から楽しめる事業へと発展することを期待したい。 ◇当該施設が事業提携を締結している4つの芸術団体のうち、助成対象事業では、特に東京フィルハーモニー交響楽団とシエナ・ウインド・オーケストラを活用した事業が多く実施された。今後も事業提携団体との連携をさらに深め、地域のニーズを的確に反映しながら、地域における芸術文化の発展に寄与する活動の継続が望まれる。	

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

普-02①東京フィル・親子で楽しむ“はじめてのオーケストラ”においては、事業提携を結んでいる東京フィルハーモニー交響楽団との連携により、オリジナルの音楽劇を制作・上演している。 令和6年度公演では、新たに若手のオペラ歌手をキャスティングし、従来から出演しているベテランオペラ歌手との共演を実現した。 ベテランと若手アーティストの共演の場の創造により、相互に刺激を与え合い、総合的に質の高い公演を提供することができ、制作力を向上できたと考えている。 また、(レジデントカンパニー・アーティスト)の観点においては、事業提携団体である東京フィルハーモニー交響楽団との継続的な連携により、当劇場が創造活動の拠点として機能していることを体現できた。 今後も事業提携団体との連携をさらに深め、次世代のアーティストの活躍の場を積極的に創出し、地域における質の高い事業の実施とアーティストのさらなる発展に貢献したい。
--

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ 利用者の多様なニーズに寄り添った案内業務を実践している。 ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
①子どもたちを対象にした事業の実施 ⇒子ども向け事業における券売率を調査する(普-02)。 ②ホール利用サービスの向上 ⇒貸館利用者を対象にしたアンケート調査を実施する。	①子ども向け事業(2公演×2回)における平均券売率 95%以上 ②接客・設備・案内について、「満足」「やや満足」と回答する割合 90%以上	①普-02 子ども向け事業(2公演×2回)の平均券売率実績:96% ②＜接客＞について「満足」「やや満足」と回答した割合実績:98.3% ＜設備＞について「満足」「やや満足」と回答した割合実績:95.7% ＜案内＞について「満足」「やや満足」と回答した割合実績:90.2%	・①、②の双方において、目標値を達成しており、一定の成果を得ることができた。 ・①普-02子ども向け事業の平均券売率は96%で、目標の95%を上回ることができた。 開催時期を夏休みやひな祭りといった子どもに係わるイベント時期に設定したことや、「0歳から入場可能」と設定したことにより、幅広い子育て世代にリーチしたことによる成果と考えられる。 一方で、アンケートの自由記述欄において普-02①東京フィル・親子で楽しむ“はじめてのオーケストラ”について、「開催時間を子どもの昼食時間にかからないとなお良い」といった意見が複数記載されていた。現状の事業内容や公演構成上、すぐに時間帯の見直しを行うことは難しいが、今後は開催時間に関する理解を得られるような工夫や情報提供について検討すべき課題であると考ええる。 ・②貸館利用者を対象としたアンケート調査において、各項目で目標値を上回る満足度を得ることが出来た。(貸館利用者アンケート集計結果より) 一方で、＜案内＞に関しては目標値をわずかに上回る水準であり、特に＜案内＞項目のうち「パンフレットやホームページの施設案内」の単一項目においては、「満足」「やや満足」と回答した割合が89%と目標値を若干下回っており、より分かりやすい表記・表示の要望が高いことがわかった。また、＜案内＞の項目のうちもう一つの「ホールロビー等の案内表記」についても、「満足」「やや満足」と回答した割合が90.1%と目標値をわずかに上回る結果にとどまっている。当ホールは区役所との複合施設であり、変更等については区側との調整も必要になることから、慎重に進めていく必要がある。 なお、＜接客＞は、「満足」「やや満足」の合計が98.3%、＜設備＞は「満足」「やや満足」の合計が95.7%と目標を大きく上回る高評価を得られており、質を維持できるよう、引き続き施設運営に取り組みたい。	◇普-2「音楽普及プログラム」のうち、「東京フィル・親子で楽しむ“はじめてのオーケストラ”」は、2公演とも完売(意見交換より)だった。単なる演奏会だけではなく指揮者体験や音楽劇を取り入れたプログラムが効果を発揮したと認められる。開催時間に関する課題については、事業内容・リハーサルスケジュール等の工夫など、様々な検討を加えていただきたい。 ◇普-1「アウトリーチプログラム」と普-3「吹奏楽普及プログラム」についても、事業提携団体と連携しながら、芸術を鑑賞・体験する機会が提供された。なかでも、普-3「吹奏楽普及プログラム②シエナdeアン・コン！～アンサンブルコンテスト～」では、小学校、中学校、高等学校、一般・大学の4部門に分かれた参加団体を募集し、参加団体は、コンテスト前にシエナ・ウインド・オーケストラの団員から直接指導を受け、コンテスト後には審査員から講評を受けるという流れで実施された。このコンテストは、10年以上にわたり継続的に開催されており、事業提携団体の協力のもと地域の文化拠点として重要な役割を果たしていた。 ◇ホール利用サービスのアンケート調査における満足度は高く、事前に設定された目標値を上回る成果が確認された。項目別では一部で目標値を下回る結果が見られたものの、全体的には高い数値が得られた。今後もこの高い数値が維持できるよう、引き続き適切な施設運営に努めていただきたい。	

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・(児童生徒への機会提供)の点において、継続的かつ多様な取り組みを行っている。
普-01の①小・中学校出前コンサートでは、小・中学校を対象に事業携団体である東京フィルハーモニー交響楽団、シエナ・ウインドオーケストラ、太鼓芸能集団鼓童が学校に赴きコンサートを実施し、普段子どもたちが慣れ親しんでいる学校という環境での鑑賞機会を実現したほか、
②アーティスト・イン・音楽室では学校にある楽器を活用したプロの演奏家による体験プログラムも展開し、より実践的で身近な芸術体験の機会を提供した。
普-02では、提携団体によるオリジナル演目の上演を実現し、音楽鑑賞だけではなくプログラムに演劇要素を加え、子どもが飽きることなく公演を楽しめる工夫をしたこと、また、広報物もキャッチーで分かりやすいデザインにすることにより、子どもたちやその保護者に興味関心を持ってもらい、チケットの購入動機につなげ鑑賞機会の拡大につながった。
さらに普-03①中学生のための吹奏楽クリニックでは、シエナ・ウインド・オーケストラの奏者による中学生の吹奏楽部員への指導が行われ、鑑賞機会の提供にとどまらず、技術向上を図る実践的な学びの機会を提供することができた。
これらの取り組みにより、芸術に親しむ裾野を広げるとともに、子どもたちの感性の育成に寄与することができていると評価している。

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
文化芸術を楽しむ区民のすそ野を広げるため、学校や地域施設でのアウトリーチを充実化するとともに、事業自体の認知度を高める。 ⇒①アウトリーチ事業の実施数を調査する(普-01)。 ②アウトリーチ事業の希望調査施設数 (区立小・中学校を除く)(普-01)。	① (1)小・中学校 7校以上 (2)小・中学校以外の施設 3施設以上 ②小・中学校以外の施設 30施設以上	① (1)小・中学校 7校 (2)小・中学校以外の施設 4施設 ②小・中学校以外の施設 33施設	・①、②の双方において、目標値を達成し、概ねの成果を得ることが出来たが、新たな課題も見える結果となった。 ・①アウトリーチ事業の実施数については、(1)小・中学校は7校、(2)小・中学校以外の施設は4施設と、それぞれの目標値(小・中学校7校以上、その他施設3施設以上)を達成することができた。教育現場や、区民に親しまれている文化施設、また、普段はコンサート会場に足を運ぶことが難しい方も利用をしている福祉施設といった会場において、文化芸術の体験を提供することができた。 ・②小・中学校以外の施設におけるアウトリーチ事業の調査希望数については目標30施設以上のところ、実績33施設と目標を上回ることができたものの、実際に希望があったのは2施設にとどまった。(調査対象事業:普-01④文の京コミュニティコンサート) この結果を受け、複数の対象施設にヒアリングを行ったところ、建物の立地や構造上の問題でコンサートを実施することが難しいことがわかった。小規模な編成や独奏での演奏会の提案や、観客を事前抽選して混雑を避ける対策を施すなど、実施可能施設の拡大に向けた再検討が必要であると考える。加えて、多様なスタイルの提案を分かりやすく伝えるためにも、案内資料の見直しの検討を行ってきたい。	◇普-1「meet the music in Bunkyoアウトリーチプログラム」のうち、①小・中学校出前コンサートでは、楽器紹介や指揮者体験、リズム遊びなどを含む参加型のプログラムを実施し、④文の京コミュニティコンサートでは受け入れ施設の要望に応じた選曲を行うなど、受け入れ側に配慮した事業を展開した結果、アンケートの回答から、多くの参加者に好評を博した内容ことが確認された。 ◇アウトリーチ事業は、文化施設へのアクセスが難しい区民に対して、芸術文化を広めるために不可欠な取り組みであると考えられる。今後も受け入れ側の要望に応じて、より柔軟に事業を展開できるよう、引き続き検討していただきたい。	

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・(プログラムの多様さ)での評価として、普-01④「文の京コミュニティコンサート」においては、実施施設の特性や利用者層を踏まえ、施設側担当者との丁寧なヒアリングを通じてプログラムの企画・構成を行うことで、より多様で魅力的な公演内容を実現することができた。 具体的には、「野球殿堂博物館」では、2023年に野球殿堂入りした作曲家・古関裕而の楽曲が施設側担当者からリクエストされたため、演奏にはリクエストに対応が可能なサクソフォンカルテットを採用。これにより、施設の特色と親和性の高い演奏会を提供することができた。 また、「日中友好会館美術館」においては、中国伝統楽器のリクエストを反映し、揚琴・二胡・中国笙による編成のコンサートを実施。こうした要望に応じた対応が、地域施設での文化芸術体験の幅を大きく広げることに繋がった。 さらに、施設側担当者のアンケートでは「初めてお越しになった方も大勢いらしたようで、地元の方々に当会館を知っていただく良い機会となった」といった声が寄せられ、演奏会が地域住民と施設との新たな接点となり、施設の認知度向上にも貢献したと評価できる。 施設との連携を重視し、ニーズに即したプログラムを展開したことにより、編成及びプログラムの多様性が高まり、より地域に根差した文化事業としての質を高めることができた。
・普-01④響きの森アーツキャラバンでは、地域の福祉施設に赴き公演を行い、普段ホールへの来場が困難な方々にとって身近な場所で文化芸術に触れる機会を創出することで人生を豊かにし、生きる活力としていただくことを目的として実施している事業で、(アクセシビリティ)の向上に寄与している。 この取り組みをさらに多くの方に周知し、事業水準の向上を図るため、今回初めての試みとして区のプレスリリースで事業実施の発表を行った。残念ながら今回は取材の機会はなかったものの、事業を広く周知することができ、事業としては一歩前進できたと考えている。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。						
(イ)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。						
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。						
(エ)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。						
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。						
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。						
(キ)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。						
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。						
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。						
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。						
(サ)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。						
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。						
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。						
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。						

4. 総評

・ 団体の自己評価

○当館のミッション達成について
当館のミッションである「地域の芸術文化活動の拠点として、地域の人たちが良質な文化芸術を気軽に楽しみ、自ら文化芸術に関わることができる場や機会の提供」に基づき、各事業を展開。事業全体を通じて、このミッションを概ね達成することができた。

○普-01「meet the music in Bunkyo アウトリーチプログラム」では、小・中学校、福祉施設、区内文化施設などに赴いて公演を実施し、地域に根ざした環境の中で良質な文化芸術の鑑賞・体験機会を提供。年齢や背景を問わず、誰もが楽しめるように事業を展開し、文化芸術に触れる裾野の拡大につながった。

○普-02「meet the music in Bunkyo 音楽普及プログラム」では、子ども向けのオリジナル演目を継続して実施し、事業としての定着が見られるようになった。券売率も目標を上回り、安定した運営が実現している。指揮者体験や手拍子による参加型演出を取り入れ、子どもたち自身が文化芸術に「参加している」と実感できる仕掛けを行った。

○普-03「meet the music in Bunkyo 吹奏楽普及プログラム」では、「吹奏楽3upプロジェクト」の一環として実施した楽器体験コーナーでは、楽器に初めて触れる親子の参加が多く見られた。普段は触れる機会の少ない楽器を通じて、子どもたちに音楽への興味や関心を引き出し、貴重な体験機会を提供することができた。

○助成対象外事業では、大ホールで開催した「コンドルズの遊育計画」において、小学1～3年生を対象に、オープニングアクト出演を含むダンスワークショップを実施。出演を目的とするだけでなく、身体を動かす楽しさや表現する喜びを体感できる内容とし、豊かな体験機会を提供した。
保護者アンケートからは、子どもの成長を実感したという声が寄せられた。また、出演を通じ舞台の裏側に触れる機会が鑑賞の視点を広げ、保護者にとっても舞台芸術への理解が深まる貴重な機会となった。

○一方で、普-01「meet the music in Bunkyo アウトリーチプログラム」では、学校及び区内施設において、調査実施数に対して実施希望数が伸び悩む傾向が見られた。立地や構造上の問題もあるが、それをクリアできる事業構成の検討・提案の必要性があること、また、未実施の学校・施設にとって、事業内容の具体的なイメージが持ちにくいことが一因と考えられるため、今後は案内通知の内容の見直しを検討する等、事業実施へのハードルを下げる工夫を図るなど課題も見えた。

・ 所見

◇申請事業については、ほぼ予定通り実施された。

◇また、当該ホールのミッションに基づき、「発信」「交流」「育成（支援）」の3つの柱を軸とした事業が展開された。「発信」の面では、実演芸術の魅力を広く伝え、特に子どもや子育て世代を中心に関心の向上が図られた。「交流」では、アーティストと区民が交流する場を通じて、実演技術の普及が一層促進された。また、「育成（支援）」では、地域の芸術愛好家への支援が継続的に行われ、文化芸術活動の発展に寄与する取り組みが行われた。

◇さらに、各事業の実施にあたっては、アーティストのみならず、アウトリーチ先の施設とも密接に連携し、地域に根ざした実演芸術の普及に努めた。単なる公演にとどまらず、参加型プログラムも展開され、多様な立場や背景を持つ人々が、実演芸術を身近に感じ、主体的に関わる機会が創出された。

◇助成対象外事業についても、鑑賞型のプログラムに加えて、ワークショップを取り入れることで、実演芸術の楽しさをより多くの人々に届けられた。

◇今後も、4つの事業提携団体をはじめ、関係各所との協働体制をより一層深めながら、アンケートやフィードバックを通じて寄せられる地域住民の声に丁寧に応え、誰もが親しみを感じられるホールの在り方を追求していくことが望まれる。地域に愛され、必要とされる文化拠点として、今後のさらなる発展と挑戦に期待したい。